



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30
 例会場：卯辰山・ホワイトハウス
 事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所
 TEL <0762> 63-1151

会長：越野 民男 幹事：浅田 豊久
 情報委員長：清水 忠

1976・2月5日

第58号

仏教と日本人

文学博士 橋本 芳契 先生



たとえば涅槃^{ねはん}という言葉がある。
 本来、仏教の世界で仏陀の入滅を意味する此の言葉が、中国や印度では、同時に、雪が融けるとか煙草を一服喫うといった日常生活の立居振舞に軽く使われている。
 又、涅槃^{ねはん}会の2月15日には、人々は挙げて正月元日のように楽しむというように、宗教は民族の生活に深い根を下ろしている。
 ヨーロッパに於いても同じである。
 キリスト教の信仰と西欧文化の形成が相即不離のものであることは誰もが認めるにやぶさかでない。

日本ではどうだろうか。

私は今、福井から金沢へ雪の北陸路を通過して来る中で、皚々たる白雪の清らかに大地を包み、自然と人間の安らかに同和している世界に、仏教という寂靜、入寂、寂光という境地をしみじみ感じて来た。仏教と日本人の心情は、底辺で深く結びついているといわねばならない。

しかし、現実の生活は仏教と遊離していくばかりである。

最晩年の西田幾多郎が説いたように、日本人は仏教による日暮しを今一度見なおさねばならない。

それが、現代社会の心の荒廃を救う一つの道である。

——金沢北RC例会卓話より——（文責 清水 忠）



卯辰山碑林散歩 (29)

——宮崎友禅齋の碑——

加賀友禅の祖宮崎友禅齋の墓と句碑は卯辰山裾竜国寺の苔むした石段を上りつめたところにある。

「京の事 また口へ出る余寒かな、友禅という句を見ると、彼は京都の出身のように思われるが、承応3年金沢に生れ応文元年83才で没したという説もある。何れにしても金沢の伝統文化の鼻祖の一人であることは間違いない。

私の職業奉仕

岡田 林太郎

夢が想像となり計画が青写真に描かれ、建物の実施へ、やがて一つ一つの積重ねが建物と成り、街となり、大きな社会を造って行く。私が建物を依頼され、其れを造る時、何時かロータリーの卓話で聞いた通り、造る喜びを第一義に感じたい。依頼された方の心を汲みとり誠心誠意、企画以上のものへと取り組む、それを日常の信条とし、私の一生の生き甲斐としている一人だと自負して居ります。然し私は依頼して頂いた建物が、私自身総てを手掛ける事は容易ではありません。当社では、専門の技術者を担当責任者と決め、私はその統轄する柱であると……其の信念を如何にして下部に伝えるか、又出来る限りの創意工夫に依り、価格を如何に調和するか、自ら先頭に立って指示しているが、然し思い通りにならない、それが現実の姿です。それを克服する為、毎朝幹部会を開き、尚毎月数回例会（情報、連絡、打合せ、研究、指導、反省、現場主任会）へと、10の欠陥を7に、7の欠陥を5に、5を3に、3を2にと指導し、日進月歩の近代文化にせっきたくまし、明日の実りへとそれが出来ればと願っている今日です。



社員の採用について

新採用の場合是一般手続とほぼ採用方法が同じだと考えられるが、然し一つだけ違う方法を選んでいます。採用内定者には二次として、面会日を改めて通知し毎年新採用に際し述べる事であるが「学校卒業御目出度う。次に諸君が習った学科は基礎学であって、実務では無い。本当の実務に当たってみると判らないのが本当で、判らないという事が判った時が少しづつ判ったので其の時こそ会社の方針を習得し、自分の技を磨く最良のチャンスだと……」

最後に私が諸君への希望として一番大切な事は、祖先を敬い父母を大切に、兄弟仲良く、友人と親しく出来るか、入社の内定はしているもののこれが出来ない方は就職御遠慮して欲しいと……」

一両日の後に必ず両親の誰人かが良く言って頂きました。宜敷就職御願致しますと、来社されます。それが当社の退職者の無い原因だと自負して居ります。

以上が私の本意ですが、職業奉仕の道に通じているでしょうか。

社 訓

1. 礼節と親切
2. 創意と工夫
3. 計画と実現
4. 造らせて頂く喜び
5. 会社と社員の一体

人々の内心には、本質的に人のためになろう……とする
気持ちと、その反面自己本位の欲望とが互いに対立し、
常に交錯している……。ここにロータリーの存在意義が
あるのではなからうか。

辰年会員 今年の抱負を語る
 “ゆとりを持とう”

東 元 潔



お宮詣りから帰り熱を計る。体温38度5分。頭が少しボーとする。夜お正月だが往診を乞う。流感の由、ついていない。

1月4日、熱が下がる。喉が痛む。明日はなんとか出勤したい。平松先生は尚2・3日養生が必要とのこと。夕刻妻の反対を押し切り出勤することに決める。これが私の主義だ。

以上が本年1月1日と同4日の手帳に記録した日課のメモである。十年この方風邪で寝込んだことはないのに、正月早々、病気になり然も今年は私の「えと」の年である。余り縁起を担がない方であるが、ちょっと嫌な気がした。

先日この事を銀行の行医の先生に話した処、原因は昨年暮からの不養生による精神的、肉体的消耗によるものだろうといわれた。

考えてみると、成程昨年暮、年末賞与の支給について組合と連日話し合い、引続いて突発的な仕事が増え、仕事に追い廻された。ここ2・3年来この様な忙しさが急に激しくなってきたようである。この事は私ばかりでなく、世の中の全ての人々が、慌しさの渦中に巻き込まれているのではなかろうか。いつぞや某社のトラックの前面に「日本列島急ぎ旅」と書いた看板が掲げられているのを見たことを記憶している。何処を見ても忙しそうである。

コンピューターの出現は人間の頭脳労働の一部を解放し、土曜交代休暇・祝祭日の増加はサラリーマンの余暇をふやし、家庭電気製品の普及は主婦の労働時間を短縮させた筈である。しかし現実には全くこれ等の事から生まれるゆとりが無視された如く安らぎが感ぜられないのはなぜだろうか。物質的繁栄の中にあって、人間の尽きるところのない欲望から、人間お互いが足枷をはめて苦悩しているとしたか考えられない。

人間の英智は今後更に物の豊かさを実現していくであろう。しかし、それとバランスのとれた心のゆとりが生まれてくるであろうか。更に考えなければならないことは、地球資源の枯渇である。今まで無限と思われ、然も人類にとってなくてはならない空気・水さえ汚染され、且つこの美しい自然は破壊され、地球上の住家は狭められつつある。

極論かもしれないが、人類は今や物心両面の破局に近づきつつあると考えられる。

今こそ心と物とのバランスをとるため、欲望追求にブレーキをかけ、物の豊かさより心の豊かさへ価値の転換をはからなければならない。せくな、いそぐな、あわてるな、こんな言葉を思い出す。

中国の諺に「ゆっくり行くことを恐れるな、立ち止まることだけを恐れよ」とある。

既に耳順の年を迎え、今更人生功なきを恥ずと後悔しても仕方がない。もう一度自分の周囲をよく見つめ、スロー・バット・ステデーにいこう。正月早々病気をしてファイにしたが、こう気付いたことは思わぬ収穫である。

理 事 会 報 告

1976.1.22. 於 ホワイトハウス

● 金沢5RC合同連絡役員会報告

- A. 共通管理費は合同会計より支出する。
- B. ベルギーとの交換学生の件については各クラブの国際奉仕委員長に実施を前提とした計画を考えてもらう。
- C. 事務局直通電話設置の費用は合同会計より支出する。
- D. I.C.G.F. の会員登録については各クラブごとに理事会で承認を得てもらう。

● 協議事項

- A. I.C.G.F. 見学について
浅田幹事が2月8日、大垣で開催される岐阜第一分区分I.C.G.F.へ出席・見学することに決定。
- B. 会員・家族合同親睦会決算報告
- C. 城北地域社会開発準備委員会中間報告。

